

大神神社参拝と三輪山登拝、山麓歴史探訪 富井 忠雄

平等寺を訪ねて～廃仏毀釈による破壊と 再建をご住職から伺う～ 八木 健彦

1月18日(火)歴史同好会主催でこのコロナ禍の中、2年ぶりの登拝です。JR三輪駅9時10分集合、曇りで参加者22名。

大神神社の拝殿で奈良・人と自然の会の行事の安全と会員の健勝を祈願してお祓いを受けました。

次いで、摂社の狭井神社まで皆さんで行きそこで登拝組と山麓組とに分かれ、登拝組は11人で入山料300円/1人と入山許可の「登拝の禪」をいただいて御神体の三輪山(467m)へ向かいました。

最初にまず、各自御幣を賽銭箱の横に入れてお祓いをして出発しました。丸太橋を渡り、三光の滝まではわりと楽でした。少し休憩し、そこからは急な坂道を登り、途中では草木など観察しながら中津磐座で小休憩して、再び急坂を登り、烏山椒の林を抜けると高宮神社がありお祓いをして、山頂の奥津磐座(大物主神)に着きました。11名揃ってお祓いをしていたら雪がちらつき、私たちが清めて下さったようで、またパワーをもらって下山しました。

11人全員の禪を集め狭井神社社務所へお返ししました。行程は往復約4km、2時間30分の登拝でした。

その後1時頃、昼食を二の鳥居横の福神堂で三輪そうめん、おでん、柿の葉寿司などとお神酒を少しいただいて身体が温まって帰路に着きました。皆さんお疲れさまでした！！



山麓組10名は狭井神社近くの大美和の杜展望台で大和三山を目の前に一望したあと平等寺へ。丸子孝法住職より感銘深い講話を聴く。

平等寺は聖徳太子開基開山と伝えられ、大神神社の神宮寺の大寺院で、三輪流神道を広める役割もしていたが、明治の神仏分離一廃仏毀釈によって徹底的に破壊された。その際、村人たちが土蔵をつくりそこにはかなりの数の仏像を隠し保存したという話にホッとする。昭和40年に弟子入りされたご住職は、6年後の師匠の遷化に際しての約束を果たすべく、16年間本堂復活勧進托鉢をされた。ガリ版刷りのチラシを手にして1軒ごと門付けしてまわる托鉢だったという。その時出会った人たちとの心の交流の話しに感動し、テレビで全国放映され、大反響が湧き起こったという話には心が躍る。山門は自分で鉋掛けもして建て、本堂の設計図も自分で描いたという超人的な活動ぶりを聴くと、このお体でどこにそんな力が…と驚かされる。ともかくその不屈の情熱とエネルギーには驚嘆するばかりであった。

そして多武峰の妙楽寺。鎌足の子息の定慧一不比等によって建立され、神仏習合の一大聖地となっていたが、やはり明治の廃仏毀釈によって徹底的に破壊された。ご住職は50年前に平等寺とともに妙楽寺の再建を発願され、それは遂に昨春に本堂落慶をみたのであった。この本堂の天井絵図144枚と襖絵(旧多武峰妙楽寺全景図)はご住職がその全てを描かれたという。

本当に感銘深いお話しであった。参加者の気持ちを寸志ご喜捨としてお渡しすると、ご住職は妙楽寺落慶の記念誌を全員に配られた。いいお話しを聴いた後、素麺屋でいい酒と温かいにゅう麺をいただいていい気持ちになって散会した。

